

# 「シャインマスカット」のコンテナ・トンネル栽培技術

本県の農地は水田が主で、果樹を栽培するには排水対策が必要です。そこで、収穫用コンテナを利用した土壌の影響を受けないブドウの栽培方法を開発しました。併せて、コンテナ栽培とトンネル栽培(簡易雨よけ栽培)を組み合わせた新梢管理法を開発しましたので紹介します。

## 1 コンテナ栽培で排水対策

コンテナ栽培は、防草シートと遮根シートの上に、土を入れたコンテナ5個(用土量200L)を並べるだけで、簡単に排水対策が可能で、畑地での地植え栽培と同等の果実を生産できます(図1)。水田転換畑で地植え栽培をするには、排水対策として、客土や明きよ・暗きよを業者に施工してもらう必要があります。

コンテナ栽培の導入に必要な費用は10aあたり約118万円で、客土より10aあたり約34万円のコストが削減されます。

用土は山砂:バーク堆肥=1:1で、植え付け時にはコンテナ3個、翌年に2個増設し、5個にします。

樹形は短梢せん定の片側一文字整枝で、植栽間隔は、樹間×列間=6.0×2.2mを基準とします。

また、コンテナ栽培は、地植え栽培と同等の品質の果実と収量が得られます(表1)。



図1 コンテナ栽培の様子

表1 コンテナ栽培と地植え栽培の果実品質比較

栽培方法	房重 (g)	粒数 (個)	1粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	果皮色 (C.C.)
コンテナ栽培	523	38	13.6	19.0	0.35	3.2
地植え栽培	589	39	15.2	18.1	0.31	3.0

## 2 コンテナ・トンネル栽培に適した新梢管理

ブドウをトンネルで被覆することによって降雨を避けることができます(図2)。慣行栽培では、新梢は100~120cmで摘心しますが、市販されているトンネル(片側80cm幅)では、はみ出た新梢部分が雨に当たり、病気が発生しやすくなります。コンテナ栽培は、樹勢を抑制することができるため、市販のトンネル幅に合わせ、新梢を80cmで強摘心しても、慣行と比べて果実品質を下げることなく(表2)、トンネル内に新梢をすべて収めることができます(図3)。

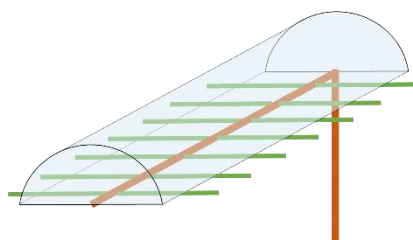


図2 トンネル栽培(模式図)



図3 慣行の摘心(左)と強摘心(右)

表2 強摘心処理が果実品質に及ぼす影響

試験区	房重 (g)	粒数 (個)	1粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸含量 (%)	果皮色 (C.C.)
強摘心区	584	41	14.4	19.4	0.41	3.1
慣行区	549	41	13.5	18.5	0.37	3.2